



宮城県日中友好協会

〒981-0931 仙台市青葉区北山 2-5-1-103

TEL・FAX 022-274-3811

E-メール jcfa-miyagi@rose.plala.or.jp

ホームページ http://www16.plala.or.jp/miyagikenn/

11月、(霜月、しもつき)。先月は台風、大雨で、宮城県も大きな被害を受けましたが、皆さんはいかがだったでしょうか。このような災害がこれからも続くのでしょうか心配です。これから寒くなります、体に気を付けてお過ごしください。

1. 11月の行事

日 時	行 事 名	場 所
11月16日(土)	中国留学生招待「ホームステイ」15:00～大河原日中友好協会	オーガ研修室
11月17日(日)	芋煮会 10:00～会費:3000円 大河原日中友好協会	中央公民館
11月19日(火)	①魯迅先生逝世83周年碑前祭 10:30～ ②留学生昼食交流会 12:00～ 碑前祭終了後	①仙台市博物館「魯迅之碑」前 ②銀座ライオン一番町店
11月23日(土)	手巻き寿司交流会 10:00～ 会費500円 青年委員会	仙台国際センター交流コーナー
12月1日(日)	第2回中国語の洒落言葉を日本語で楽しむ会 10:00～青年委員会、受講料:一般1000円、会員700円、学生500円。	仙台国際センター交流コーナー

※ 各地区協会・委員会の行事報告等あれば掲載いたしますので、ぜひFax, メール等でお知らせください。

2. 稲刈り体験交流会 (富谷市日中友好協会)



9月22日、学友会12名を招いて「稲刈り体験交流会」を行いました。これは留学生から一度、体験したいとの声があり、実現したものです。松田副会長宅の田んぼで、鎌も用意していただき、5月に田植えした“ひとめぼれ(中国語では一目鍾情)”の稲刈り、また東ねて稲掛けも行いました。これには現在、吉林省から宮城県に研修に来ている于さんも、国際交流課の中鉢さんと共に参加しました。皆さん初めての体験に「楽しかった」と喜んでいただきました。お昼には会員の女性陣が真心こもった豚汁とおにぎりを用意。「美味しい」とおかわりも多く好評でした。

3. 日中友好仙台荒浜ツアー (青年委員会)

青年委員会では10月5日(土)日中友好仙台荒浜ツアーを開催しました。参加したのは在日中国人小学生、中国人留学生、スタッフ総勢20名。地下鉄新井駅に集合した一行は車で旧荒浜小学校に移動。津波の被害跡が残る校舎で当時の写真とビデオ上映を見ました。留学生は「見学を通じて自然災害の怖さを覗くことができました。これらの経験を他の留学生にも伝えたいと思います。」という感想や、「津波で周囲の建物が流されている中で荒浜小学校が流されなかった建築技術は素晴らしいと思いました。」という感想、「自然の力を再認識してこれからも防災の勉強に取り組んでいきたいです。」といった感想が聞かれました。その後農業園芸センターに移動しぶどう狩りと梨狩りを体験しました。係りの方から果物について様々な説明をしてもらい実際に試食をしながら「甘いシャインマスカット」と「みずみずしいシャインマスカット」の見分け方を教えていただきました。その後、たくさんのぶどうの中から各々好みの味のぶどうを選んでそれぞれ狩りました。スーパーに並んだ果物しか見たことがないという留学生にとってとても新鮮な体験だったようです。参加した留学生たちは「農業マメ知識を学ぶことができ楽しかったです。」とフレッシュな果物を土産に笑顔で帰って行きました。



4. 石巻市温州友好訪問団に参加して（石巻地区日中友好協会 会長 白井 省三）



中国には2015年10月以来4年ぶりの訪問。浙江省の省都・杭州市も温州市も今なお広域での高層住宅、商業ビル建設風景が随所で見られ、大連など中国東北部が停滞していると聞くのにこの地域の成長は持続している様子。この地域を見ても中国が都市化と共に労働市場から消費市場に変貌していく姿が見える。温州市長会見でも友好都市締結35年間に温州市の面積は町村合併で10倍に、GDPは200倍に、財政収入は300倍に成長したと威勢の好い冒頭挨拶。石巻市は町村合併で面積は増えたものの大震災の影響も受けて人口減少は今なお続き、震災復興予算が切れた先の見通しは暗くこの明暗が際立つ。温州市長は交流は友情を発展、協力は経済を発展させる、産業協力、文化・芸術協力・スポーツ交流、青少年交流で石巻市との交流・協力を発展させたいと語り石

巻市に絶好の機会が与えられた。この機会を是非とも活かして欲しい。私は北京に駐在し浙江省寧波市の工場も担当してたとはいえ温州市は初めての訪問。石巻市・温州市友好都市締結35年の歴史も詳しくは知らない。今回の訪問はその知らなかったことの多くのことを現地目にし耳にして学ばせて頂いた。温州市には、亀山紘市長は4回訪問、石巻・温州友好協会監事の鈴木正敏氏は友好都市となった当初から温州市を頻りに訪問して尽力された正に井戸を掘った人、温州市から多くの水産加工研修生を迎えた大興水産元工場長の和田佳一氏ほか歴代の多くの方々のご努力が、この35年間の温州市との友好の歴史に詰まっていることを肌身で感じることができた。私は1949年中国建国の年に生まれ、中国経済が大飛躍する21世紀幕開けの2000年12月から2012年3月までの11年間、中国・大連、北京に駐在して中国の多くの方々にお世話になった。このご縁とご恩に感謝する想いを抱きつつ、これからも両国の民間交流に微力ながらも努めていきたい。改めてそう決意する今回の訪問だった。今回の訪問では石巻市復興政策部の皆さまには大変にお世話になりました。改めて感謝申し上げます。

5. 2019年全国中国語スピーチコンテスト東北大会（青年委員会 吉澤千明）



10月26日（土）日立システムズホール仙台において全日本中国語スピーチコンテスト東北大会を行いました。今回13回目となる大会には東北各県から48名のエントリーがありました。例年の2倍のエントリーに審査時間が足りないことが判明し、急遽会場を二つに分けて同時に審査を行うという初めての試みで行いました。大会には東京から（公社）日中友好協会の橋本副会長、新潟から駐新潟総領事館孫大剛総領事他3名の領事がご来場くださいました。また、県協会からは江幡名誉会長が来賓としてご出席くださいました。第2会場は発表者を一度に全員収容できず、入れ替え制にしての運営でしたが、コンテストは両会場スムーズに進行することができました。スピーチの部、朗読の部ともに参加

※ 佐々木謙宮城県日中友好協会会長の挨拶



者のレベルは年々上がっていると感じました。特に今年は山形からの参加者が16名と多く、そのレベルも高いと感じました。表彰式の前に参加者のサプライズ誕生会を行いました。この大会8度目の参加となる坂田正雄さんは、大会前日に90歳のお誕生日を迎えられました。坂田さんは応援に来ていた奥様と息子さんの見守る中、会場のみみなさんにも祝福され「今までいただいたどんな賞より嬉しいプレゼントです。」と花束を胸に大変喜んでくださいました。表彰式の後、新潟総領事館よりいただいた参加賞のパンダのぬいぐるみと一緒に参加者全員で記念撮影を行いました。

橋本副会長からは「地方大会でこれだけのコンテストができるのは大変素晴らしい。」とお褒めの言葉をいただきました。また、朗読一般の部に参加した方からは「中国人の友人に発音をチェックしてもらい途中あきらめかけた時には励ましてもらい出場できました。何とか発表できた時には嬉しさも倍増しました。来年はこの経験を自分の文章でスピーチしたい。」という感想をいただきました。他の参加者からは「サ

※ 孫大剛新潟総領事の挨拶

プライズ誕生会があり、とてもアットホームで素敵な大会だと思いました。進行もスムーズで参加者としてもすごく動きやすかったです。」といった感想をいただきました。運営スタッフとして参加してくれた留学生からは「参加させていただいたことで人生の大先輩と出会えたことは何よりも貴重な体験です。卒寿を迎えてなお新たな挑戦を忘れない姿勢を見習いたい。」という感想をもらいました。

今回の大会は青年委員会のメンバーだけでなく、学友会の留学生、佐々木会長はじめ県協会の皆様のご助力で、無事に終えることができました。当日急遽審査員を引き受けてくださった江幡名誉会長、応援に来てくださいました瀬戸女性委員会事務局長、この大会に関わって下さった全ての皆様に心から感謝申し上げます。

なお、全国大会には各部門から9名をエントリーします。一人でも多くの方が全国大会に進めることを願っています。

スピーチコンテストの様子



※ 橋本逸男日中友好協会副会長の挨拶



※塚本信也審査委員長（東北学院大学教授）の挨拶



※坂田正雄氏の朗読発表（90歳の誕生日を迎えられた。サプライズで花束を贈られ参加者からお祝いされる）



※参加賞でいただいたパンダのぬいぐるみを抱いて一同記念撮影